

◆病院図書室ネットワーク紹介◆

東海地区医学図書館協議会について

小林 晴子

I. はじめに

東海地区医学図書館協議会（以下、協議会とする。）は、1972年に設立された。愛知、岐阜、三重、静岡の大学と病院からなる正会員10機関（大学図書館8、病院図書室等2）、目録会員69機関が参画し（2018年5月現在）、東海地区の医学、医療への貢献を目指して、東海目録事業、研修会、重複雑誌交換の活動を行っている。

本稿では、協議会の活動内容について紹介する。

II. 活動内容

1. 東海目録事業

後述する東海目録の運営、研修会の開催及び実務者間の情報交換、医療従事者等への文献提供が主な事業である。

2002年に東海地区における大学図書館及び病院図書室の総合雑誌目録「東海目録2002年版（冊子体）」を発行、2005年2月より東海目録のweb版を提供した。

2013年度より近畿病院図書室協議会の雑誌目録の書誌・所蔵を共有して、病院図書室共同目録KITOcatを提供することとなった¹⁾。

2018年3月に、KITOcatは終了となり、2018年4月より、TOMcat-EJ：東海目録電子ジャーナルデータベースが稼働している。

現在、TOMcat-EJは、構築から運営・保守までを業者に委託せずに、会員からなる東海目録ワーキンググループが担っている。会員へはNACSIS-CAT/ILLへの参加を促し、本システムでは、電子ジャーナルのパッケージの書誌と所蔵を確認し、他館への文献複写を依頼することができる。

研修会は年に1、2回開催し、今年度は第1回目を8月に開催した。恒例となっている「病院図書室基礎シリーズ」では病院図書室における資料の選定をテーマとした事例報告と業者による電子ブック類のプロダクトレビューを行った。

また、会員間の交流や情報交換を目的に、図書室担当者情報交換会（ユーザー会）を合わせて行なっている。

なお、協議会では、所属機関から交通費が支給されない会員には協議会から交通費の半額を支給する交通費助成を行なっている。

また、日々のレファレンスや所蔵調査等については、会員限定のメーリングリストを使っている。

KOBAYASHI Haruko

東海地区医学図書館協議会

（愛知医科大学 総合学術情報センター）

TEL : 0561-63-1490

haraki@aichi-med-u.ac.jp

2. 実務担当者研修会及び EBM ワークショップ

実務担当者研修会と EBM ワークショップ「医療を学ぶ人のための EBM ワークショップ in 愛知」を年に 1 回開催している。実務担当者研修会ではシリーズ「医学・医療を学ぶ」、「実務で役立つ情報技術：ソフトウェア類利用のコツ」のほか、あらたにテーマを定めて開催する場合もある。

EBM ワークショップは、2013年から実施しており、今年度で 6 回目の開催となる。司書、医師や薬剤師等の医療従事者、薬学部や医学部の学生、院生がスモールグループに分かれて、医学論文のランダム化比較試験やシステムティックレビュー等を吟味する。EBM の概念や知識の習得のほか、他職種との人的ネットワークの形成も目的としている。

昨年度からは、NPO 法人 CASPJapan が後援となり、医療従事者の講師やチューターの派遣及び広報などを強化した。

なお、これらの研修会も、先の交通費補助

の対象となっている。

3. 重複雑誌交換

年 1 回、会員の図書館及び図書室にある重複雑誌を交換している。重複雑誌を有効活用し、欠号補充などを行っている。

Ⅲ. おわりに

協議会の活動内容を紹介してきた。今後も、図書館におけるめまぐるしい変化に対応するために、会員にとって有益な事業を展開していきたい。

なお、EBM ワークショップ等の研修会については、会員以外の図書館員にも参加いただきたい。

参考文献

- 1) 坪内政義. KITOcat-東海目録 (TOMcat) からの変遷. ぶっくとらっく. 2013 ; 22 : 6-7.